



ユネスコエコパーク通信

エコパークセンターへの 寄贈ありがとうございます

綾町の照葉樹林や生物多様性についての情報発信・研究の拠点となる綾ユネスコエコパークセンターは、今年4月の開館に向け準備が進められています。

同センターは元綾中央医院を修復・改造（リノベーション）したもので、会議室や展示室、大学のサテライトオフィスなどを設けており、研究者や観光客だけでなく地域の皆さんもさまざまな活動のために利用できるようになってい



ます。
12月18日には、昭和47年度綾中学校卒業生（垂水久利代表）

から還暦厄払い記念として大型の屋外看板が寄贈され、贈呈式が行われました。看板の南・北側には「綾ユネスコエコパークセンター」の文字、西側には白い背景に綾ユネスコエコパークのロゴマークが表示され、ランドマークになっています。

また、生涯学習や特産加工品開発などに利用できる調理実習室には、九州電力宮崎営業所から電磁調理器（IHクッキングヒーター）が寄贈されました。同センターでは、

九州電力主催のIHクッキングヒーターを用いた料理教室の開催なども計画されています。

皆さんのご厚意や支援により、充実した施設にすることができています。ありがとうございます。多くの皆さんに活用される施設を目指して、現在、ユネスコエコパーク推進室と地域おこし協力隊が中心となって展示などの準備を進めています。4月の開設を楽しみにお待ちください。

なお、同センターの会議室や調理実習室などの利用料金や時間、催しの内容などの詳しい情報は、決まり次第皆さんにお知らせします。

■問い合わせ先

ユネスコエコパーク推進室

☎ 77・3482

コラム ニホンウナギ

日本人になじみ深いウナギ。その生体は最近まで謎に包まれていました。

普段は川で生活していますが、産卵の時期には海に下っていきます。大海原をエサも食わずに泳ぎ続け、数千キロも離れた産卵場所を目指すことが分かっており、スナミナはもちろん、どんなに離れていても自分の生まれ故郷に戻ることができる優れた方向感覚を合わせ持っています。独特な生活サイクルのため人工的に繁殖させることが難しく、海から川へ上ってくる赤ちゃんウナギシラスを捕まえて増やすしかありません。

世界をまたにかけ生活するウナギは、環境悪化や乱獲により世界中で絶滅が危惧されています。地球環境の変化を、身をもって私たちに訴えているのかもしれない。

